

真庭の子どもたちが ない!

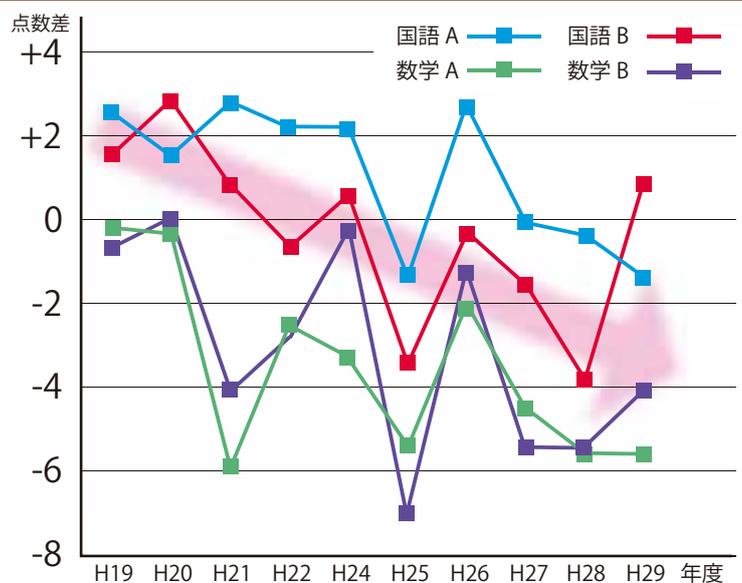
小中学生にとっての今の時期は、自らいろいろなことに興味を持って疑問や課題を見つけ、学習したことを活用したり工夫したりする経験を積み上げ、また失敗したりそれを乗り越えたりすることを通して、将来生きていくために必要な学力を育成する大切な時期です。

しかし今、携帯電話やパソコン、そしてスマートフォン（以下、「スマホ」）の長時間使用が、そんな大切な時期の子どもたちの生活をむしろばんでおり、全国学力・学習状況調査の結果をみても「学力低下」が顕著に表れています。今回はその調査結果を基に、真庭市における学力の実情などについて紹介します。※折れ線グラフ、棒グラフなど 出典は全て「全国学力・学習状況調査」

真庭市の中学3年生の学力が 近年低い状態で推移

このグラフは、毎年4月に行われる「全国学力・学習状況調査」における、真庭市内の中学3年生の平均正答率と「全国平均との差」を表しています。このグラフが学力の全てを表すものではありませんが、実態を把握する一つの指標として見た場合、市内の中学3年生の学力が、近年低い状態で推移していることが分かります。そして、学習状況調査から、この

全国学力調査における真庭市の中学3年生の
全国平均との得点差の推移



国語A、数学A…【主として「知識」】

身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

国語B、数学B…【主として「活用」】

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

※平成22、24年度は一部の学校でのみ実施

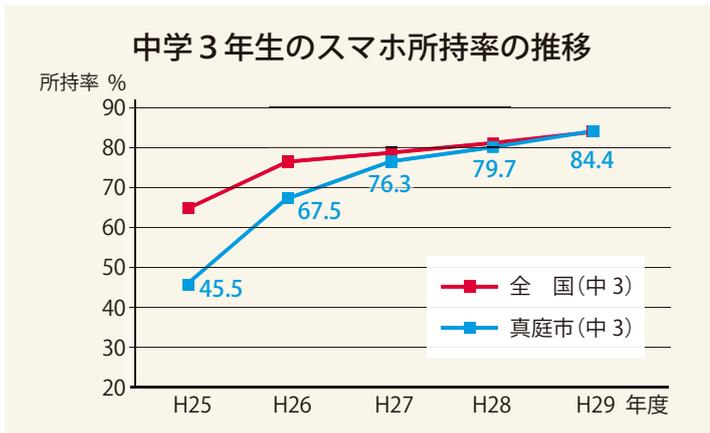
ような結果となった背景が見えてきました。

- ① スマホの所持率が、近年急激に上昇している
- ② スマホの使用時間が長くなり、家庭学習の時間が短くなっている
- ③ スマホの使用についての「ルールが無い」、もしくは「ルールがあっても「守っていない」子どもが増加している

今、危

市内中学3年生のスマホ所持率は 全国平均並みの約84%

平成25年度の市内の中学3年生のスマホ所持率は、全国平均と比べても20%近く低い45%程度でした。しかし、ここ数年で全国平均とほぼ同



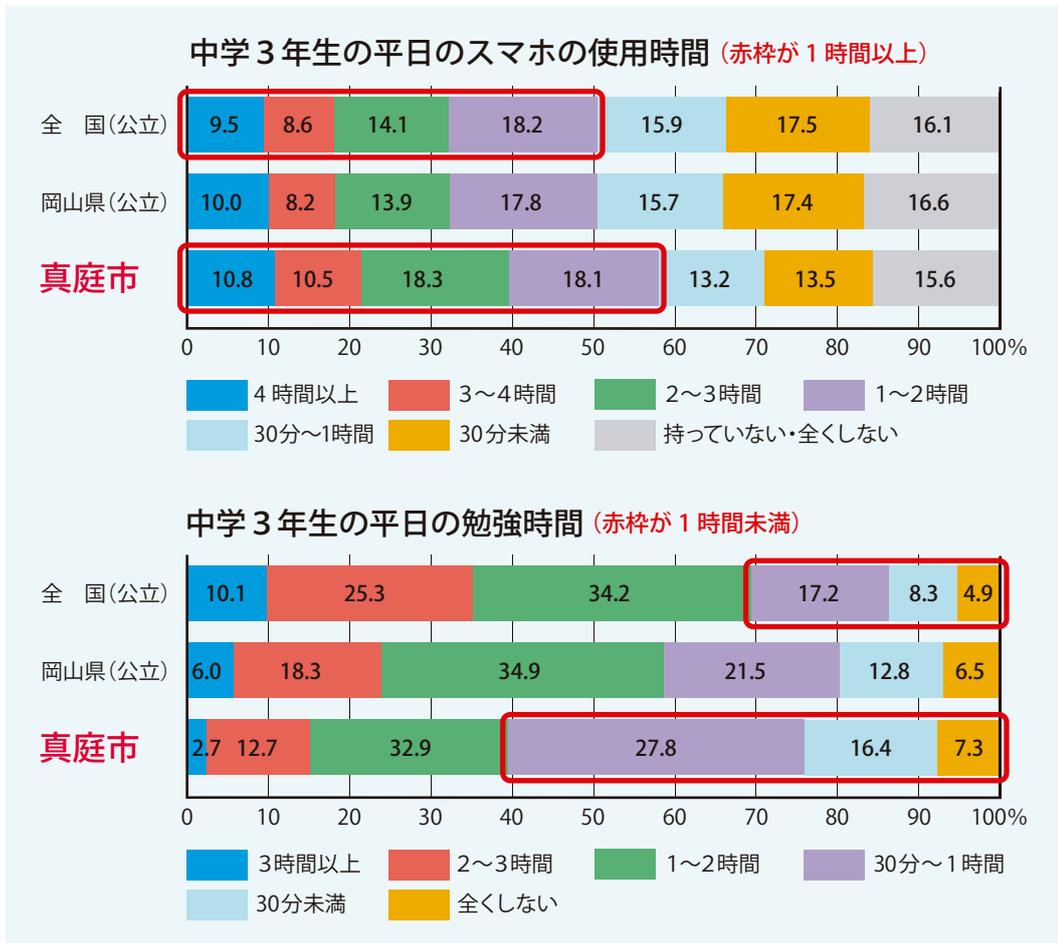
様となるまでに上昇し、現在では約84%の生徒が所持しています。そして、そのスマホ所持率の急激な上昇が、子どもたちの生活に深刻な悪影響を与えていることが改めて分かってきました。

スマホの使用時間は全国平均以上 一方で勉強時間は全国平均以下

スマホ所持率は全国平均とほとんど変わらない一方で、市内の中学3年生が平日に1時間以上スマホを使用している割合は、全国や岡山県の平均と比べ10%近くも高い約58%となっています。

家庭だけでなく、コンビニやスーパーマーケットなど、さまざまな場所でスマホを使う子どもたちを見かけたことはありませんか。今、スマホは大人だけでなく、子どもたちの日常に必要以上に溶け込んでしまっています。また、平日の勉強時間が「1時間

未満」の中学3年生の割合は約52%で、全国平均(約30%)と比べても20%程度の開きがあることが分かりました。このほかにも、テレビやDVDの視聴、ゲームをする時間などは全国

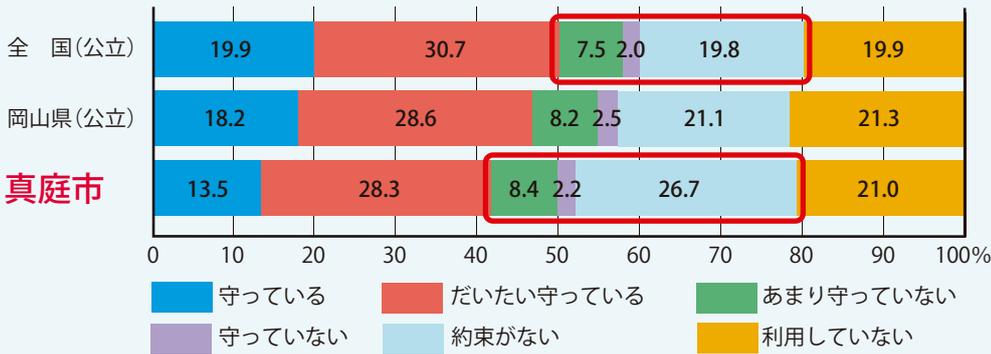


平均よりも長くなっており、真庭市の中学生に学習習慣が定着しているとは言えません。このまま放置すれば、必要な努力を怠りやすきに流れる子どもを育てることにつながってしまいます。

家庭でのルールの未確立が学習習慣の弱さへ

例えば「21時以降は電源を切る」「自分の部屋に持ち込まない」などといった、家庭におけるスマホのルールを「守っていない」または「約束

中学3年生の家庭でのスマホ等の利用のルール (赤枠内が「ルールがない」または「守っていない」)



がない」と回答した生徒の割合は約37%で、全国平均(約30%)と比べても10%近く高くなっており、このこともまた学習習慣の未定着につながっています。使用時間を決めるなど、家庭でのルールの確立が急務です。

学習時間減少と学力低下 いずれは小学生にも広がる恐れ

毎年4月に全国および岡山県の「学力・学習状況調査」が行われ、教育委員会では学力の実態把握の一つの指標としています。また今年度より、岡山県の調査が小学校3年生から5年生と中学校1、2年生で実施され、全国の調査が行われる小学校6年生と中学3年生と合わせると、小学校3年生から中学校3年生まで継続的に学力や学習状況の実態把握ができるようになりました。

真庭市の結果を見ると、残念ながら中学3年生の学力調査の結果が全国平均を大きく下回っています。前回の調査を見ても、スマホの所持率の上昇と使用時間の増加による家庭での学習時間の減少が「学力低下」に大きな影響を与えていることは明らかです。

しかしながら、これは中学生だけの問題ではありません。スマホの普及率は小学生でも上昇しており、この問題はいずれ低年齢化していくと

予想されます。このまま放置すれば、小学生においても生活リズムが崩れて学習時間の確保ができなくなり、中学生同様に学力低下につながることも十分予想されます。

未来を担う子どものために 家庭で話し合い、そして協力を

最近では、小中学生がスマホや携帯電話を持つことが珍しくなくなり、それどころか生活に溶け込んでしまっています。スマホなどの長時間使用は、生活習慣の乱れや睡眠時間を削るほどの「依存状態」になるなど、心身共に悪い影響をもたらすだけではなく、家庭での学習時間や読書の時間、さらに家族と触れ合う時間も減少するため、人とのコミュニケーション能力の低下にもつながります。

真庭市の小中学校では、各学校区のテスト週間に合わせて、毎日同じ時刻に学習を開始できるように時間を設定し、その際にはテレビを消すとともにパソコンやスマホの使用を控える「ノーメディア・ウィーク」の取り組みを進めています。「ノーメディア・ウィーク」は、夜ふかしや睡眠不足といった基本的な生活習慣の改善や家族とのコミュニケーションの時間、そ

家庭の中のスマホ使用のルール例

- ▶午後9時以降は保護者がスマホを預かる
- ▶ゲームも午後9時までとする
- ▶勉強する時には電源を切る
- ▶食事や会話の時には使わない
- ▶充電は家族のいる部屋です
- ▶ルールが守れない時は使用禁止

紙に書いて家族全員が見えるところに貼るなど、家族で協力して取り組みましょう。

して学習時間を確保するための大切な取り組みです。スマホなどの長時間使用による生活習慣の乱れや学力低下が問題となっている今、「ノーメディア・ウィーク」以外の生活の中でも、パソコンやスマホの使用時間や用途などについて家族で話し合っただけでルールを確認し、学習時間を確保することが大切です。子どもを学びに向かわせるためには、家庭での協力が不可欠です。子どもたち一人ひとりの学びが将来の真庭市を創ります。全ては子どもたちのためです。家庭でも子どもの学びを応援する環境づくりについて、ご協力をお願いします。



真庭市教育委員会として次の取り組みを進めます

■学校で取り組むこと

- (1) 各校の学力・学習状況調査の結果を公表します。
- (2) 各校の課題に対して今後の対策・対応など公表します。
- (3) 子どもが自分の考えをもち、自信をもって発表し、子ども同士が学び合う授業づくりを進めます。
- (4) 宿題に計画性をもたせ、毎日一定量の宿題を出し教師が点検と評価をします。
- (5) 生徒会などでスマホの使い方や使用時間などについてのルール作りを進めます。

■各家庭にお願いしたいこと

- (1) 家庭学習やスマホなどの使用のルールについて、家族でよく話し合しましょう。
- (2) 家庭学習の時間を毎日確保しましょう。
- (3) 家庭でできる応援・協力を考えましょう。
- (4) 子どもの努力を認め、励ましましょう。

子どもの成長には、「必要な時に必要な努力を重ねる」経験が不可欠です。自分を律して学ぶという行為そのものが、人をたくましく育むための得がたい経験の場ではないでしょうか。

保護者・学校・地域全体が、「子どもの最善の利益」とは何かを中心に置きながら考えていくことが大切です。

【問い合わせ先】 真庭市教育委員会学校教育課 橋本
TEL0867-42-1087 (FAX1416)

全ては真庭市の将来を担う 子どもたちの成長のため